

「新生大濠」を目指して

全国各界で活躍の三万余りの福岡大学附属大濠高等学校同窓生の皆様、ご壮健のこととお慶び申し上げます。

二十一世紀の幕開けである平成十三年は国の内外で様々な問題が起こり、前途多難な様相を呈しています。教科書問題は近隣国との摩擦を引き起こし、また不審船の出没は国際的な「安全」は保障されていないことを示唆しました。国の経済は依然として不況の域を脱せず、失業率は年間5%を越えてしまいました。内閣の改革路線は全国的な高人気とは裏腹に将来の展望が見えず、むしろ多くの企業倒産を生み出し、「不安な一年」となっていました。九月にアメリカで起こった同時テロ事件は米軍によるアフガニスタン攻撃という国際的な戦いにまで発展し、国際的にも「不安」な一年であり、世界的な課題として二〇〇二年に引き継がれました。

本校も改革の時期を迎えています。元氣の大濠、文武両道の大濠、進学の大濠など様々な評価がありました。職員一同「新生大濠」として力強い大濠に新生するべく諸方面において様々な改革を試みています。中学が平成十四年度、高校は十五年度から新教育課程が実施されますが、その教育課程の整備をおこない、公立校の完全五日制実施の中で授業時間確保のために、本校は四週六休の第二・四土曜日の休日、一日七限授業、総合的学習も現状に合わせた実施とするなど、進学校としての実績をあげるべく基本線を確保しました。また、進級規定も「学び舎」としての認識を高めるために一科目でも欠点を取れば追検査があり、基準点を越えなければ原級としました。男の祭りである大濠体育祭をマンネリ打破のために本年度は中止し、様々な検討を加えましたが、次年度には大濠体育祭の伝統を引き継ぎながら新生体育祭を実施します。大学入試はセンター入試を終え、二次・私大に向け、生徒・教師が一丸となって準備してまいります。画期的なこととして、AO入試



校長 青木重夫

で、既に九州大学法学部五名、薬学部一名、東北大学理学部一名、早稲田大学五名の合格者を出しています。このような状況の中で二月をピークとした入試の結果に期待しているところで、最後にりましたが、安藤会長を中心とした同窓会の皆様には日頃より様々なご支援・ご協力を頂き厚く感謝しております。同窓会の益々の発展と諸兄氏の健康とご活躍をお祈り申し

本年度入試状況

九州大学AO入試に6名合格

東大・京大に多数出願

センター試験も終わり、この会報が出る頃には、私大入試、国立前期の個別試験も終わっているが、現時点(2/19)での推薦合格などの状況を、まとめておきたい。昨年3名の合格者を出した九州大学法学部のAO入試であったが、本年は5名。薬学部の1名を加え、6名が九州大学への進学を決めている。過去7年間の推薦合格者の累計は法学部12名、薬学部3名の計15名で、その数は、他の高校では見られない数字である。その他の大学では、東北大学、熊本大学、鹿屋体育大学、北九州大学などに合格を出している。また、一般入試を占う、防衛大学の一次合格者数63名、二次合格者28名で過去最多である。再び防大合格者日本一となりそうだ。

福岡大学への附属推薦は46名。一般推薦AOなどで14名。指定校推薦は文系14名、理系12名。早稲田大学、慶應義塾大学、同志社大学、立命館大学、中央大学、明治大学、法政大学、東京理科大学、関西大学などその内容である。特に早稲田大学についてはこの指定校推薦の他に、自己推薦で教育学部に2名、法学部に2名、AO入試でも政治経済学部1名の合格者を出した。

さて、本年はいよいよ中高一貫コース一回生の諸君が卒業する。卒業が2回目にな

バスケット、夏冬準V

バレー、夏ベスト8

バドミントン、二年連続の夏

今年度も大濠スポーツは、我々同窓会員を大いに楽しませてくれた。特にバスケット部のインターハイ準優勝、ウィンターカップ準優勝は久々の快挙である。両大会ともに宿敵代工業の前に涙をのんだが、来期につながる好ゲームであった。大濠バスケットの全国での地位はゆるぎない。

バレー部もインターハイベスト8の好成績。新チームは春高へ向けて県大会優勝を果たした。既に全国での上位進出が期待され、とんでもないことが起こりそうな予感がする。バドミントン部は二年連続のインターハイ出場を果たした。昨春は選抜大会にも出場して、個人では全国三位の成績を残した。県下では敵なしである。伝統の剣道部・柔道部もトップレベルを維持しており、柔道部は今春の選抜予選の県大会では、準決勝で大牟田に大将同士までもつれたが惜しくも敗れた。剣道部はまたいつでも全国一になる力を蓄えている。サッカー部も東福岡の対抗としては常に一番手である。軟式野球部は夏、久し振りに県大会での優勝を果たしたが、北部九州大会で宿敵四日市高校にまたしても涙をのんだ。来年度も運動部各部の活躍が我々を楽しませてくれ

るであらう。

また、昨年は全国高校文化祭が福岡で開催されたこともあり、文化部各部がそれぞれの分野で様々な活躍をみせた。演劇部、放送部、文芸部、写真部など各部が裏方としても活躍。放送部、かるた競技部は全国大会にも出場した。年明けには吹奏楽部がマーチングの全国大会で、銀賞に輝いた。

しかし、なんといってもスポート王国大濠の復活は、硬式野球部の甲子園出場と駅伝部が年末の都大路を駆け回ることにかかっていると言っても過言ではない。福大大濠の名が全国に轟くことが我々の夢であり、喜びである。そのためにも同窓会の尚一層の結束が望まれる。

我々同窓会員一同は、新生大濠のあるべき姿を学校の先生方とともに模索しつつ、我が母校の発展のために全面的な支援を行いたいと思う。頑張り大濠。



バスケット部 インターハイ(熊本)準優勝

著書紹介

稗田邦雄著

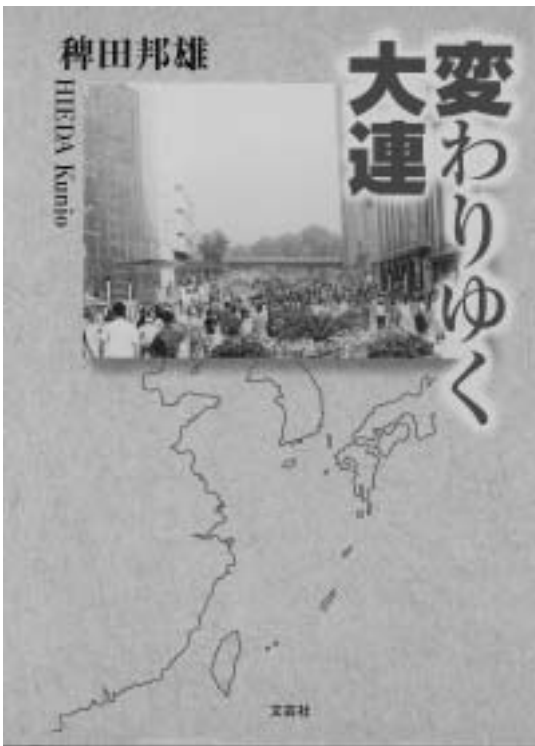
「変わりゆく大連」

著者稗田氏は中学・高校第8回生昭和36年卒、筑紫支部前会長としても活躍された。水産加工関係の仕事で、初めて大連を訪れてから十年という節目の年に、これからの中国がどのように変化してゆくかを見つめること、その問題意識が本書の出发点である。一九四二年、河南省開封市で出生したという自身の生い立ちも深く関わっている。

中国東北部、旧満州は、日本人の残留孤児の多い地域である。一つ間違えば自分の境遇でもあった、その強い気持ちで中国の人々の心と生き様に向けられている。学校では旧日本軍の侵略の歴史を教える風土で、思いきって切り出したところの民族が嫌いですか?の質問。懸念した答えは全く違って来ず、却って、民間人レベルの暖かい交流の思い出話に出会ったりもする。また、大連外語学院での日本語人気英語一〇〇〇人に次ぐ八〇〇人等の意外な現実に驚いたり。

この十年間の大連の変容ぶり、おらかな国民性、勤勉な若者たち。著者は、中国がアジアのリーダーとなることを確信する。そして、私はこれからも、中国と日本の小さなかけ橋になるために、努力を惜しまず、見つめ、行動していきたいと結ぶ。両国民が心を通わせ、互いに学び合って、アジアの発展に尽くす、そのささやかな力になりたいという意思の表明であらう。

第二部は、その他中国各地の紹介。旅行ガイドとしても参考になる。



(東京都文京区、文芸社刊、定価1000円)

問い合わせは同窓会事務局まで
TEL 092-714-1681